

平成 30 年 7 月 17 日

日 E U 共同記者会見

トウスク欧州理事会議長及びユンカー欧州委員会委員長の訪日を心から歓迎いたします。

先般の豪雨による甚大な被害が発生したことに対し、トウスク議長及びユンカー委員長から、心からのお見舞いをいただいたことに感謝するとともに、私からブリュッセル訪問を中止せざるを得なくなったことを受け、かわりに訪日をしていただいたことに心から感謝申し上げます。

本日、我々は、歴史的な日 E U 経済連携協定（E P A）、そして戦略的パートナーシップ協定（S P A）に署名をいたしました。E P A への署名は、保護主義的な動きが世界で広がる中、日本と E U が自由貿易の旗手として世界をリードしていくとの揺るぎない政治的意志を世界に鮮明に示すものであります。

日 E U ・ E P A により、人口約 6 億人、G D P の約 3 割、そして約 2 1 兆ドルを占める世界で最大級の規模の先進経済圏が新たに誕生します。これは、2 1 世紀にふさわしい高い水準の自由で公正な経済の枠組みをつくり、アベノミクスの新しいエンジンとなるものであり、我が国の農林水産業者や中小・小規模事業者にとって大きなチャンスが生まれることとなります。E P A の効果を日 E U 双方の市民が早く実感できるよう、早期発効に向けて協力していきます。

日 E U ・ S P A は、基本的価値を共有する日本と E U が自由で開かれた国際秩序を維持拡大し、国際社会の平和と繁栄をリードしていくための基盤となります。S P A に基づき、幅広い分野での協力を一層強化していきます。

本日の会談では、日本と E U の間で推進されている様々な協力について有意義な意見交換を行いました。我が国は、アジアの安全保障への関与を拡大していきたいとの E U の意向を歓迎します。自由で開かれたインド太平洋戦略の下、今後とも日本と E U の連携を強化していきます。

1 0 月の A S E M 首脳会合も見据え、連結性や質の高いインフラ等の分野で連携を進めていきます。

日 E U 間の個人データの越境移転に関し、日 E U 当局間で本日、相互に認定をすることで一致し、日 E U 間の相互の円滑な個人データ移転の枠組みを実現するために、2 0 1 8 年秋までに双方の必要な手続を完了することにコミットしたことを歓迎します。

日 E U の閣僚間で、日 E U ハイレベル産業・貿易・経済対話の設置で一致したことを歓迎します。

教育、文化、スポーツ面では、先日、閣僚級の第 1 回政策対話が実施されたことを弾みとして、今後も協力を進めていきます。

英国のEU離脱については、日本企業を含む世界経済への悪影響が最小限となること、交渉の透明性、予見可能性の確保に向けたEUの努力及び日本への適時適切な情報提供に改めて感謝します。

北朝鮮問題についても有意義な議論を行いました。先般の米朝首脳会談は、相互不信の殻を打ち破ろうとするものであり、拉致、核、ミサイル問題の解決に向けた一歩として歓迎します。北朝鮮には豊富な資源と勤勉な労働力があり、安保理決議を完全に履行すれば、北朝鮮は明るい未来を描くことができます。その前提となる拉致、核、ミサイル問題の解決に向け、EUを始め、国際社会と連携して、全力で取り組んでまいります。拉致問題の早期解決に向け、日本として北朝鮮と直接向き合う決意を伝え、EUの支持を得ました。

本日署名した日EU・EPAとSPAは、日EU関係を新たな次元に引き上げる歴史的なものです。この協定を道しるべに、自由、民主主義、人権、法の支配といった普遍的価値を共有するパートナーとして、自由貿易の旗を高く掲げ、ドナルド、そしてジャン＝クロードとともに手を携え、日EU関係をあらゆる分野で力強く発展させ、世界の平和と繁栄に貢献してまいりたいと思います。

私からは以上です。ありがとうございました。